活　動　報　告

日本語教育部門：日本語・日本事情
（２００３年４月～２００４年３月）

田　村　泰　男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授業科目	開設単位数	学期別週授業時数			備考
		前期	後期	通年	
総合日本語初級ＩＡ	１・１	2	2		広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級ＩＢ	１・１	2	2		
総合日本語初級ＩＣ	１・１	2	2		
総合日本語初級ⅡＡ	１・１	2	2		
総合日本語初級ⅡＢ	１・１	2	2		
総合日本語初級ⅡＣ	１・１	2	2		
総合日本語中級ＩＡ	1	2			
総合日本語中級ＩＢ	1	2			
総合日本語中級ＩＣ	1	2			
総合日本語中級ＩＤ	1		2		
総合日本語中級ＩＥ	1		2		
総合日本語中級ＩＦ	1		2		
総合日本語中級ⅡＡ	1	2			
総合日本語中級ⅡＢ	1	2			
総合日本語中級ⅡＣ	1	2			
総合日本語中級ⅡＤ	1		2		
総合日本語中級ⅡＥ	1		2		
総合日本語中級ⅡＦ	1		2		

日本語聴解特別演習A	1	2			
日本語聴解特別演習B	1		2		
日本語分析特別演習A	1	2			
日本語分析特別演習B	1		2		
日本語表現特別演習A	1	2			
日本語表現特別演習B	1		2		
日本語古文特別演習A	1	2			
日本語古文特別演習B	1		2		
日本語語彙特別演習A	1	2			
日本語語彙特別演習B	1		2		
映像日本語特別演習A	1	2			
映像日本語特別演習B	1		2		
日本の社会・文化A	1	2			
日本の社会・文化B	1		2		
日本の思想・哲学A	1	2			
日本の思想・哲学B	1		2		
日本の地域・文化A	1	2			
日本の地域・文化B	1		2		
日本語・日本文化特別研究ⅠA	4		4		
日本語・日本文化特別研究ⅠB	4		4		
日本語・日本文化特別研究ⅠC	4		4		
日本語・日本文化特別研究ⅡA	4	4			
日本語・日本文化特別研究ⅡB	4	4			
日本語・日本文化特別研究ⅡC	4	4			

・霞キャンパス

授業科目	開設単位数	学期別週授業時数			備考
		前期	後期	通年	
総合日本語初級A	1・1	2	2		広島大学外国人留学生のための授業である。
総合日本語初級B	1・1	2	2		
総合日本語中級A	1	2			
総合日本語中級B	1		2		
総合日本語上級A	1	2			
総合日本語上級B	1		2		

2．授業内容

（東広島キャンパス）
・レベル１

授業科目	総合日本語初級ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ
担当教官	石原 淳也・深見 兼孝・山中 康子
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ｉ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	総合日本語初級ⅡＡ・ⅡＢ・ⅡＣ
担当教官	田村 泰男・渡部 浩見・下村 真理子
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第１週－第５週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第６週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級ＩＡ・ＩＢ
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 （スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＣ
担当教官	坂田 光美
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級ＩＤ・ＩＥ
担当教官	浮田 三郎・渡部 浩見
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第 1 週～第 7 週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第 8 週～第 15 週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語 2nd ステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ＩＦ
担当教官	坂田 光美
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	総合日本語中級ⅡＡ・ⅡＢ
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡＣ
担当教官	山中 康子
目　　標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内　　容	（前半）短文聴解　日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 （後半）長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教官	田村 泰男・坂田 光美
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。　～ながら、～まい、～わけだ、 ～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、 ～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、 ～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、 ～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、 ～なければならない、～まま、～ようとしない、～たものだ、 ～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、 ～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、 ～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教官	山中 康子
目　　標	日常生活で多用されている口語表現・慣用表現を学び、自然な発話を聞き取る能力を身につけることにより、対人関係に合わせてなめらかなコミュニケーションが図れるようにする。
内　　容	1. 男性語・女性語・社会的役割による言葉の使い分け 2. 口語に多用される音の変化　3. 省略　4. 短縮句 5. 決まり文句　6.くり返し　7. あいまい表現　8. 語順の変化 9. 話の切り出し　10. 終助詞の使い方　11. お礼・謝罪の表現 12. 相手に配慮した苦情・断りの表現
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習A
担当教官	深見 兼孝
目　　標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習B
担当教官	深見 兼孝
目　　標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習A
担当教官	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習B
担当教官	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習A
担当教官	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.諺の表現法　2.親と子　3.夫婦　4.恋愛 5.油断と用心　6.欲　7.酒　8.友　9.秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習B
担当教官	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠　2.病気　3.生死　4.季節　5.天候 6.学者　7.教育　8.義理　9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語古文特別演習A
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内　　容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、 十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語古文特別演習B
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内　　容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、 十八世紀の日本 語の読解、十七世紀の日本語の読解、 漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	日本語語彙特別演習A
担当教官	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1.漢字の訓読み 2.同訓異字 3.各種比喩表現 4.身体語彙を使った慣用句 5.動植物の語彙を使った慣用句 6.擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習B
担当教官	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1.特別な読み方をする漢字 2.送り仮名によって読み方の違う漢字 3.読み方が二通りある漢字熟語 4.国字　5.畳語　6.類義語・類意表現 7.若者語　8.外来語　9.接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習A
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習B
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー　7. 試験 8.9. 生命倫理　10.11.12. 現代家族の様相 13.14.現代の教育課題と教育改革　15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の社会・文化B
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. メディアとは何か 3.4. サブカルチャーとは何か 5.6. 少年犯罪 7. 試験 8.9. 男性学と女性学 10.11. 教育問題―不登校・学級崩壊 12.13.14. 観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	日本の思想・哲学A
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の思想・哲学B
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	「日本の思想・哲学A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	日本の地域・文化A
担当教官	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Aでは，日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	日本の地域・文化B
担当教官	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	地域と文化Aと引き続き，広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Bでは，日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

・特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、 地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教官	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目　　標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内　　容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義VII～XII 地域研修VII～XII 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価の方法	出席・レポート・宿題

（霞キャンパス）
・初級レベル

授業科目	総合日本語初級A
担当教官	渡部 浩見
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語初級B
担当教官	山中 康子
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・中級レベル

授業科目	総合日本語中級A
担当教官	渡部 浩見
目　　標	日本語で理解し、考え、表現できる能力を養う。
内　　容	いろいろな形式の資料（グラフ、アンケート表、読み物など）を題材に、読み解き、整理した上で、自らの言葉で表現する訓練を行う。扱うトピックスは、次の５つである。 1）旅行　2）買い物　3）祭り　4）贈り物　5）マスメディア
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 （スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	総合日本語中級B
担当教官	渡部 浩見
目　　標	日本語の平易な文章を読んで理解できるようになる。
内　　容	毎回、各課で、主に日本の文化に関する比較的短い文章を読み、練習問題を通して初級文法を復習しながら、応用力をつけていく。
テキスト	『日本語 2nd step』白帝社
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・上級レベル

授業科目	総合日本語上級A
担当教官	下村 真理子
目　　標	日常使われる話し言葉の聴解力を向上させるとともに、日本文化について理解を深める。
内　　容	テレビドラマのビデオ教材を視聴する。 1)あらかじめ語彙表、内容に関する質問表を配布し、視聴後ストーリーや登場人物の心理などについて質疑応答する。 2)スクリプトを配布し、語彙・内容を確認しながら、話し言葉に特有の「省略」「縮約形」「音変化」などについて学習する。 3)再度視聴し、テーマについて意見交換する。
テキスト	ビデオ教材
成績評価の方法	出席・レポート

授業科目	総合日本語上級B
担当教官	下村 真理子
目　　標	日本語の総合的能力を高める。
内　　容	授業の始めに文法項目を学習し、その後一つのテーマについて読解あるいは聴解学習を行う。できるだけ学習者同士で話し合いをさせながら授業を進める。 A. 以下の既習の文法項目について、体系的に知識を深め、場面に即した微妙なニュアンスを表現できる力を養う。 ・自動詞と他動詞　・使役　・受身　・類義語 B. 新聞記事やテレビの対談・教養番組の録画を教材として用いる。現代社会事象に対する認識や教養を深めながら、読解力、聴解力、表現力を向上させる。漢字の読み書き、慣用表現、語彙に関する理解を深め、またメモを取りながら質問シートを埋めることによって内容を把握させる。
テキスト	自主教材 「上級日本語文法演習ーボイスー」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目
（２００３年４月～２００４年３月）

田　村　泰　男

１．授業科目一覧
・東広島キャンパス

授業科目	開設単位数	学期別週授業時数 前期	学期別週授業時数 後期	備考
Elementary Japanese I A	2		2	広島大学短期交換留学生のための授業である。
Elementary Japanese I B	2		2	
Elementary Japanese I C	2		2	
Elementary Japanese I D	2		2	
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	
Intermediate Japanese I A	2		2	
Intermediate Japanese I B	2		2	
Intermediate Japanese I C	2		2	
Intermediate Japanese I D	2	2		
Intermediate Japanese I E	2	2		
Intermediate Japanese I F	2	2		
Intermediate Japanese II A	2		2	
Intermediate Japanese II B	2		2	
Intermediate Japanese II C	2		2	
Intermediate Japanese II D	2	2		
Intermediate Japanese II E	2	2		
Intermediate Japanese II F	2	2		

Advanced Japanese A (Listening)	2	2		
Advanced Japanese B (Listening)	2		2	
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2	
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		
Advanced Japanese B (Expression)	2		2	
Advanced Japanese A (Classical)	2	2		
Advanced Japanese B (Classical)	2		2	
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2	
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2	
Japanese Society and Culture A	2	2		
Japanese Society and Culture B	2		2	
Japanese Thought and Philosophy A	2	2		
Japanese Thought and Philosophy B	2		2	
Japanese Community and Culture A	2	2		
Japanese Community and Culture B	2		2	

2．授業内容

（東広島キャンパス）

・レベル１

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教官	堀田 泰司・中川 正弘・渡辺 久美
目　　標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内　　容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習 4.口頭及び筆記による応用練習
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

・レベル２

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教官	恒松 直美・松崎 寛
目　　標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内　　容	第１週－第５週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第６週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ　本冊」（スリーエーネットワーク）
成績評価の方法	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教官	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内　　容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」（白帝社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教官	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	毎回ひとつのトピックスについての平易な文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとに次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.1」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教官	石原 淳也
目　　標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内　　容	扱う内容は以下の通り。 第1週～第7週 グラフの読み方、旅行、手紙、手紙の書き方、買い物、テスト(1) 第8週～第15週 祭り、プレゼント、アンケート、アンケートの方法、テスト(2)
テキスト	「トピックによる日本語総合演習・中級前期」 (スリーエーネットワーク)
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教官	下村 真理子
目　　標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内　　容	各課ひとつのトピックスについての文章をテープを通して聞き、それについての質問に答えていく。文章は、各課ごとにの次第に長くなっていくが、練習によって、理解した事柄を口頭でも、筆記でも答えられるようパターン学習する。
テキスト	「毎日の聞き取り５０日 vol.2」（凡人社）
成績評価の方法	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル４

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教官	田村 泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。　～ながら、～まい、～わけだ、 ～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、 ～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、 ～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、 ～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、 ～なければならない、～まま、～ようとしない、～たものだ、 ～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、 ～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、 ～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」（研究社）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教官	坂田 光美
目　　標	日常生活で多用されている口語表現・慣用表現を学び、自然な発話を聞き取る能力を身につけることにより、対人関係に合わせてなめらかなコミュニケーションが図れるようにする。
内　　容	1. 男性語・女性語・社会的役割による言葉の使い分け 2. 口語に多用される音の変化　3. 省略　4. 短縮句 5. 決まり文句　6.くり返し　7. あいまい表現　8. 語順の変化 9. 話の切り出し　10. 終助詞の使い方　11. お礼・謝罪の表現 12. 相手に配慮した苦情・断りの表現
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教官	田村 泰男
目　　標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内　　容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ざるをえない、～ようになる、できるだけ～、～おかげで、 ～のように、～よりもむしろ～のほうが、～ことだ、～のだ、 ～とはなしに～していると、かえって～、せめて～たら、 ～するやいなや、お／ご～、たとえ～ても、～（と）している、 ～がち、～た／だ上で、～わけにはいかない、～うちに、 ～た途端、～かねない、～とのことである、～にわたって、 ～とともに、まるで～ようだ、～さ／～み／～め
テキスト	「日本語中級読解新版」（アルク）
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教官	坂田 光美
目　　標	ニュースの聞き取りを通じて、ニュースに特有な表現・語彙に慣れ、必要な情報を選択する能力を養うとともに、日本社会に対する知識を増やすことを目的とする。
内　　容	（前半）短文聴解　日常的な話題の聴解 1. 自然 2. 事故 3. 生活 4. 社会 （後半）長文聴解総合的な話題の聴解 1. 社会経済 2. 政治 3. 医学 4. スポーツ
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目　　標	現代日本のさまざまな問題を取り上げた時事エッセイの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	次のような段階を踏んで、内容を理解する練習を行う。 後にそれを文字化したものを読み、理解を補う。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の把握 3) 細部の聞き取り さらに、重要語句の使い方について練習する。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教官	深見 兼孝
目　　標	ニュースの聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内　　容	ニュースを聞き、次の段階を踏んでその内容を理解する練習を行う。また、スクリプトの完成を行うことによって、漢字、語彙、表現の使い方を学習する。 1) キーワードの理解と聞き取り 2) 概要の聞き取り 3) 細部の聞き取り 4) ディクテーション
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ。および担当者の自主教材。
成績評価の方法	出席・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教官	中川 正弘
目　　標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内　　容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価の方法	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.諺の表現法　2.親と子　3.夫婦　4.恋愛 5.油断と用心　6.欲　7.酒　8.友　9.秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教官	浮田 三郎
目　　標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内　　容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1.睡眠　2.病気　3.生死　4.季節　5.天候 6.学者　7.教育　8.義理　9.動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（１９８２年）等
成績評価の方法	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	「日本語古文」基礎を学習する。 日本語古文読解のための基本的知識を身につける。
内　　容	現代日本語との関連を考慮に入れながら、日本語古文を理解するための基礎力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の心得についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法基礎、十九世紀の日本語の例、 十八世紀の日本語の例、十七世紀の日本語の例、漢文の基礎等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese B (Classical)
担当教官	多和田 眞一郎
目　　標	日本語古文特別演習Aを踏まえ、「日本語古文」の応用学習をする。日本語古文読解のための応用的知識を身につける。
内　　容	日本語古文読解ための応用力を養う。合わせて、研究のための資料として古文書を扱う際の問題点についても考える。 (内容) 現代語と古典語、古典語文法、十九世紀の日本語の読解、 十八世紀の日本 語の読解、十七世紀の日本語の読解、 漢文の読解等
テキスト	自主教材（プリント配布）
成績評価の方法	出席、試験

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目　　標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内　　容	1.漢字の訓読み 2.同訓異字 3.各種比喩表現 4.身体語彙を使った慣用句 5.動植物の語彙を使った慣用句 6.擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教官	田村 泰男
目　　標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内　　容	1.特別な読み方をする漢字 2.送り仮名によって読み方の違う漢字 3.読み方が二通りある漢字熟語 4.国字　5.畳語　6.類義語・類意表現 7.若者語　8.外来語　9.接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価の方法	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	第 1 週-第 9 週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第 10 週-第 15 週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教官	石原 淳也
目　　標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ることを目標とする。
内　　容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価の方法	出席・授業態度・レポート

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、生命倫理学、教育学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. 若者のライフスタイルと職業意識 3.4. 日本における「中流階級文化」 5.6. ジェンダーフリー　7. 試験 8.9. 生命倫理　10.11.12. 現代家族の様相 13.14.現代の教育課題と教育改革　15. 試験.
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教官	中矢 礼美
目　　標	この授業の目標は、現代日本における特徴的な社会現象あるいは問題をとりあげ、社会学、教育学、人類学の視点から読み解き、日本の社会と文化に対する認識をより深めることである。
内　　容	1.2. メディアとは何か 3.4. サブカルチャーとは何か 5.6. 少年犯罪 7. 試験 8.9. 男性学と女性学 10.11. 教育問題—不登校・学級崩壊 12.13.14. 観光人類学－観光のしかけ・観光が作り出す文化 15. 試験
テキスト	テキストは特になし。毎回の授業テーマに沿った資料をコピーして配布する。
成績評価の方法	出席50%、試験50%

授業科目	Japanese Thought and Philosophy A
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	方丈記、平家物語などのテキストを読み、歴史的に日本人の思想・哲学を支える無常観・死生観・美意識などについて考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Thought and Philosophy B
担当教官	橋本 敬司
目　　標	日本の思想・哲学を歴史的あるいは現代的に考察することにより、学習者各自が日本と日本人を発見するとともに自らの思想を形成していくこと。
内　　容	「日本の思想・哲学 A」の学習をもとに、現代の病理として生じた事件を取り上げ、その裏に潜む日本人の思想・哲学について考察する。
テキスト	随時コピーを配布する。
成績評価の方法	出席とレポート

授業科目	Japanese Community and Culture A
担当教官	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Aでは，日本の南の地域(東京から南)を中心に紹介する。
テキスト	特になし
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

授業科目	Japanese Community and Culture B
担当教官	玉岡 賀津雄
目　　標	日本の地域と文化を理解すること。
内　　容	地域と文化Aと引き続き，広島大学の留学生を対象に，日本の地域と文化を紹介する。地域の文化遺産，風土，人々の生活を探っていく。授業では，ビデオ，DVDなどを使って，実際の映像から日本の地域や文化を広く理解する。また，ゲストを招いて，さまざまな地域の紹介や討論を行う。地域と文化Bでは，日本の北の地域(東京より北)を中心に紹介する。
テキスト	特になし。
成績評価の方法	日々の授業への出席と活発な参加・短い事例報告・短い発表。

日本語研修コース

深見兼孝

［修了者］
第36期生名簿（2003年4月～2003年9月）［13名］

	氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
	Pollard, Jennifer Elizabeth	ジェニファー	オーストラリア	教育学	広島大学
	Panjaphongse, Ronakorn	ロナコーン	タイ	整形外科学	広島大学
	Agus Zainal Arifin	アグス	インドネシア	情報工学	広島大学
	Balandrano Davila, Maria De Los Angeles	アンヘレス	メキシコ	物質科学システム	広島大学
	De Silva, Devarahandhi Achini Melda	アチニ	スリランカ	漁業経済学	広島大学
	Tran, Ha Thi Thuy	ハ	ヴェトナム	水産学	広島大学
	Laoubi, Khaled	カレッド	アルジェリア	資源管理・地域開発	広島大学
	Badejo, Adebanjo Ayobamidele	バデジョ	ナイジェリア	食品科学	広島大学
	Blanco Gonzales, Enrique	エンリケ	スペイン	生物生産学	広島大学
	Alemzadeh, Abbas	アッバス	イラン	農業生物	広島大学
	Strokov, Sergey Alexandrovich	セルゲイ	ロシア	放射能学	広島大学
	Rehman, Abdur	ラハマン	パキスタン	国際協力・開発学	広島大学
	Rutto, Paul Cheruiyot	ルット	ケニア	教育学	広島大学

［修了者］
第37期生名簿（2003年10月～2004年3月）［12名］

	氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
	Amiri Bahman Jabbarian	バーマン	イラン	環境学	広島大学
	Sharman, Patrick William Adam	パトリック	イギリス	整形外科学	広島大学
	Dennpong, Patanasethanont	デンポン	タイ	医学（薬学）	広島大学
	Saiz Monttinen Elise	エリセ	スペイン	生物生産学	広島大学
	Myint Myint Kyi	ミン	ミャンマー	物理教育	広島大学
	Choi, Kwan Sun	チェ	韓国	科学教育	広島大学
	Cho, Chul Ki	チョ	韓国	都市空間の体験と価値形成	広島大学
	Zhu, Dong Bin	シュ	中国	初等中等教育政策	広島大学
	Wakhaya, Mary Nambindo	メリ	ケニア	数学教育	広島大学
	Juarez Hilario, Felipe	フェリペ	メキシコ	算数・数学教育	広島大学
	Gomer, Matias Salvador	マティアス	アルゼンチン	比較教育学	広島大学
	Worapol Jermsuntiea	ワラポン	タイ	分子生物学	広島大学

第36期（2003年4月～2003年9月）予定表

期日	行事／試験等	見学 （総合演習）	備考
4/7－4/11	4/8（火） 11:30開講式（教育学部第3･第4会議室） 14:30オリエンテーション（K308）		4/8（火） 14:00ホストファミリー案内（K308） 4/12（土） 東広島市オリエンテーションバスツアー
4/14－4/18			
4/21－4/25		4/25（金） 広島市	4/25（金）16:30 ホストファミリー対面式
4/28－5/2			4/29（火）公休日 5/3（土）公休日
5/5－5/9			5/5（月）公休日
5/12－5/16	5/15（木）第１回試験		
5/19－5/23		5/23（金） 宮島	
5/26－5/30			
6/2－6/6			
6/9－6/13	6/12（木）第２回試験・「専門用語解説」開始		
6/16－6/20			
6/23－6/27			
6/30－7/4			
7/7－7/11		7/11（金） マツダ	
7/14－7/18	7/17（木）第３回試験		
7/21－7/25			7/21（月）公休日
7/28－7/31			
8/1－8/30	夏休み		
9/1－9/5	9/4（木）第４回試験		
9/8－9/12	9/8～11（月～木）特別講義 9/12（金） 13:00成果発表会（教育学部第3･第4会議室） 15:00修了式（同上）		

第37期（2003年10月～2004年3月）予定表

期日	行事／試験等	見学 （総合演習）	備考
10/7 - 10/10	10/7（火） 13:00オリエンテーション（K308） 11:00（水）開講式（教育学部第3･第4会議室）		10/8（水）11:30 ホストファミリー案内（K308）
10/13 - 10/17		10/17（金） 広島市	10/13（月）公休日 10/17（金）16:30 ホストファミリー対面式
10/20 - 10/24			
10/27 - 10/31			
11/3 - 11/7			11/3（月）公休日
11/10 - 11/14			
11/17 - 11/21		11/21（金） 宮島	
11/24 - 11/28			11/24（月）公休日
12/1 - 12/5	12/4（木）中間試験		
12/8 - 12/12	12/11（木）「専門用語解説」開始	12/12（金）・13（土）福山	
12/15 - 12/19			
12/22 - 12/23			12/23（火）公休日
12/24 - 1/7	冬休み		
1/8 - 1/9			
1/12 - 1/16		1/16（金） マツダ	1/12（月）公休日
1/19 - 1/23			
1/26 - 1/30			
2/2 - 2/6			
2/9 - 2/13	2/12（木）期末試験		2/11（水）公休日
2/16 - 2/20	特別講義		
2/23 - 2/27	特別講義		
3/1 - 3/2	3/1（月）特別講義 3/2（火） 13:30成果発表会（教育学部第3･第4会議室） 15:00修了式（同上）		

講師一覧

第36期（2003年4月～2003年9月）

専任　浮田三郎　玉岡賀津雄　多和田眞一郎　中川正弘　深見兼孝

非常勤　今石正人　石井敬子　茅本百合子　桑原陽子　佐藤道雄

［専門用語解説］

池田秀雄（国際協力研究科）　海野徹也（生物圏科学研究科）　江坂宗春（生物圏科学研究科）　岡田光正（工学研究科）　越智光夫（医歯薬学総合研究科）　高橋徹（先端物質科学研究科）　竹村信治（教育学研究科）　西井龍映（工学研究科）　山尾政博（生物圏科学研究科）　山田隆（先端物質科学研究科）　矢野泉（生物圏科学研究科）　吉田修（国際協力研究科）

第37期（2003年10月～2004年3月）

専任　浮田三郎　玉岡賀津雄　多和田眞一郎　中川正弘　深見兼孝

非常勤　石井敬子　茅本百合子　原順子　ファウラー，ドナルド･B

［専門用語解説］

植田敦三（教育学研究科）　越智光夫（医歯薬学総合研究科）　加藤範久（生物生産学部）　小山正孝（教育学研究科）　清水欽也（教育学研究科）　曽余田浩史（教育学研究科）　高野幹久（医歯薬学総合研究科）　中根周歩（生物圏科学研究科）　二宮皓（教育学研究科）　前原俊信（教育学研究科）　宮川都吉（先端物質科学研究科）　由井義通（教育学研究科）

第 18 期（2002～2003）
日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

＜プログラム概要＞

本プログラムは、本留学生センターで受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を加えて運営されている。

98 年度（第 14 期）から 01 年度（第 17 期）前期までは従来の体制に倣い、(1) 全学の留学生向けに「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学からなる「日本語・日本文化特別講義見学プログラム」、そして (3) 指導教官のもとでの「個別指導および課題研究」から構成されていたが、01 年度（第 17 期）後期からは (2)「日本語・日本文化特別講義見学プログラム」を「日本語・日本文化特別研究 I,II」としてプログラムコーディネーター石原に加え、中川、田村両教官を授業担当者として、内容の更なる充実を図ることになった。

また、研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I,II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表する。また、指導教官と留学生センターにレポートを提出し、留学生センターではこれらをまとめて研修レポート集として刊行している。

＜受け入れ学生の概要＞

第 18 期の研修留学生の出身国、男女比の構成は次の通りであった（括弧内は、うち部局間協定に基づく教育学部受け入れ人数。）。

男子 7 (2)　女子 10 (1)

出身国

タイ 1、インドネシア 2 (1)、中国 2 (1)、韓国 3、アメリカ 1、コロンビア 1、スウェーデン 1、イギリス 1、ポーランド 2、ロシア 1、スロヴェニア 1、ニュージーランド 1

＜特別講義等＞

平成 14 年度後期および、平成 15 年度前期に実施された 02 年度（第 18 期）日本文化特別講義・見学プログラム、および、その他の行事は、以下の通りである。

2002 年

10 月 3 日（木）プレイスメントテスト

10 月 8 日（火）開講式、オリエンテーション

10 月 9 日（水）プレイスメントテスト

10 月 18 日（金）特別講義「コンピュータ講習」（留学生センター中川教授）

10 月 25 日（金）広島市見学

10 月 26 日（土）西条オリエンテーションバスツアー

11 月 1 日（金）尾道市見学

11 月 8 日（金）特別講義「日本語の文体」（留学生センター中川教授）

11 月 11 日（月）留学生交流パーティー

11 月 15 日（金）宮島見学

11 月 29 日（金）特別講義「日本語音声学」（留学生センター石原助教授）

12 月 6 日（金）レポート発表会

12 月 13 日（金）マツダ見学

12 月 20 日（金）特別講義「沖縄の言葉と文化」（留学生センター多和田教授）

2003 年

1 月 10 日（金）特別講義「日本語の語彙」（留学生センター田村助教授）

1 月 17 日（金）広島市見学（広島市現代美術館他）

1 月 24 日（金）特別講義「日本における学力論争」（留学生センター中矢講師）

1 月 31 日（金）特別講義「書道」（教育学部松本助教授）

3 月 14 日（木）、15 日（金）特別講義「しまなみ・瀬戸内地域見学旅行」

4 月 18 日（金）オリエンテーション

4 月 25 日（金）福山見学

5 月 9 日（金）研修レポート構想発表

5 月 16 日（金）特別講義「日本語と文体 I」（留学生センター中川教授）

5月23日（金）特別講義「オタク文化」（留学生センター石原助教授）

5月30日（金）、5月31日（土）特別講義「古代日本文化と山陰の歴史（松江・出雲見学旅行）」（留学生センター石原助教授）

6月6日（金）特別講義「現代日本語の語彙I」（留学生センター田村助教授）

6月13日（金）特別講義「日本のアニメ文化」（留学生センター石原助教授）

6月20日（金）特別講義「現代日本語の語彙II」（留学生センター田村助教授）

6月27日（金）特別講義　「日本語と文体II」（留学生センター中川教授）

7月4日（金）下蒲刈・熊野見学

7月11日（金）レポート作成

7月18日（金）レポート作成

7月25日（金）レポート作成

9月5日（金）レポート発表会、修了式

第一部　平成15年度広島大学留学生センター指導部門活動報告

広島大学留学生センター指導部門
講　師　　中矢　礼　美
教　授　　玉岡　賀津雄

1. はじめに

現在「留学生受け入れ10万人計画」は既に達成され、わが国の21世紀の留学生政策は、「一人一人の留学生を大切にする“質的充実”」を重視している。その基本理念の1つである「大学の質的充実のための構造改革」として掲げられている「留学生のニーズの多様化への対応や日本語能力などのハンディキャップへの配慮などを図り、大学の国際競争力を強化」するために、彼らが広島大学に満足するよう留学生の修学・生活環境の改善に努めることが指導部門の役割であると考える。

広島大学では、約800人もの留学生が在籍しているが、指導部門には二人しか配置されていない。その状況で上記の役割を果たすため、また大学の法人化を前に、その準備段階として、平成15年度の指導部門の活動は、業務の効率化と成果重視の2点に留意した。まず効率化としては、留学生支援のためのネットワーク形成、情報のIT化および多言語化、問題予防のためのオリエンテーションおよび情報提供の充実を目指した。成果重視としては、すべての活動を行うにあたって、その成果として何を到達点とするのかを明確にし、そして活動後に成果の到達度を検討し、改善を図るという姿勢を持つことである。なぜなら指導部門の業務とは、明確な定義もなく、業務を評価する指標もないため、毎度「何をしたのか」だけを追求する活動はとかく形骸化しやすい。われわれは、他の教員と同様、あるいはそれ以上に「反省的実践家」であることが求められている。

そこで以下、上記2点に留意しつつ今年度の活動報告を行い、来年度の活動の指針としたい。

2. 平成15年度の指導部門活動報告

2.1 活動の概要

年間を通しての活動の概要は以下の通りである。

（1）指導・支援活動

新しく広島大学に来る留学生に対しては、6段階のオリエンテーションを行っている。①ボランティア・チューターのためのオリエンテーション、②国際交流会館生活オリエンテーション、③全学の留学生のためのオリエンテーション、④東広島市オリエンテーション・バスツアー、⑤健康管理オリエンテーション、⑥消防・防犯オリエンテーションである。

日常の相談とカウンセリングは、教官2名が終日随時相談を受け付けており、臨床心理士の資格

を持つ非常勤の心理相談員1名が、週1回留学生の心理的な面の相談にあたっている。2001年より行っている留学生支援調査によって、相談者数は軒並み上昇している。多くの場合、直ちに解決される問題は少なく、恒常的に「支え」となることが求められていることが分かる。1度相談を経験すると垣根が低くなり、あらゆる相談を受けることになっている。今後留学生が1000人を超えることになると、全く時間が足りなくなることが予想されるため、相談を受ける時間、内容、担当者についてシステム化していくことが必要であろう。それと同時に留学生の「行き場」をより拡大し、大学全体の相談・支援体制を機能させていかなければならない。

交流支援活動としては、日本人学生国際交流ボランティア制度によって(2003年現在350名登録)、日本人学生が新渡日留学生を助けたり、留学生の会話パートナーとして互いに語学を教えあったりしながら、国際交流活動を行えるようコーディネイトしている。2003年4月1日から2004年3月31日までにメーリングリストを用いてボランティア・チューターや会話パートナーなどの募集をした回数は44回であり、74名の留学生に国際交流ボランティアの学生をマッチングした。マッチングにあたっての対応メイル総数は、400以上にのぼる。登録者が多いため、1件1件丁寧な対応を行っていると、それだけに忙殺されるため、今後はなんらかの基準を作って効率化を図る必要がある。マッチング後は、通常1，2回の報告を義務付けており、問題が発生した場合には対応をしている。大きな問題はなかったが、日本人学生や留学生双方から、異文化を持つ相手とのコミュニケーション不和についての相談を10件（15回）行い、4件については相手を変えることとした。国際交流ボランティアは、留学生の「支え」となり、ピア・サポート的役割を果たす重要な機能を持っている。今後は、このボランティア学生の質的向上に努め、留学生の支援体制の充実を一層図らなければならない。

このほか、留学生国際交流ボランティア制度によって（2002年度は156名が登録；2003年度は153名が登録)、留学生が教育委員会、地域住民の国際交流活動、県および市町村の国際交流企画、日放送局の国際交流企画などの活動に参加できるようコーディネイトしている。学校の国際理解教育への参加については、交通手段がなく、留学生の送迎の問題がある。この問題をどのように解決していくべきか、来年度の課題としたい。この他、緊急医療の英語通訳ボランティアによって、日本語が堪能でない留学生が緊急に病院に行く場合に、病院での手当てや意思疎通を潤滑に行う手助けをするボランティアを募っており、保健管理センターと留学生センターが窓口となって留学生の緊急医療支援を行っている。

ネットワーキングとしては、学内に留学生担当教官等連絡会を設け、留学生センターとともに留学生の相談・指導に関わる各部局の留学生専門教育教官、保健管理センターとのネットワークを構築している。今年度は法学部森川専門教育教官の日常的には、各種オリエンテーションの案内と報告、留学生相談業務の際の援助の呼びかけ、その他随時必要に応じて個人的な情報交換を行った。特に霞キャンパスの学生からメイルや電話で相談を受ける場合は、医学部の山岡専門教育教官に直接面談を依頼し、円滑な連携を取ることができた。また専門分野の学習補助が必要な場合は、工学

部の森岡専門教育教官に依頼できた。保健管理センターの佐々木カウンセラーとは同一留学生の相談について情報交換を行い、その後の経過についても共に見守ることができた。全学オリエンテーション（前期）には、工学部専門教育教官、法学部専門教育教官、保健管理センターのカウンセラーに参加していただき、自己紹介および相談場所や内容についての説明を受け、新しい留学生にとって大学の支援体制を感じることができるよい機会となった。

学外では、広島地域留学生団体育成支援協議会において広島県留学生会の支援、広島地域の国際交流の推進、日本での就職についてのガイダンス、広島地域進学説明および相談会、留学生関連の諸問題の議論などを行っている。

（2）研究と開発活動

留学生全員を対象として、広島大学に対する満足度調査を年2回（前期・後期）実施している（2003年度前期で5回目）。この調査で、留学生の学習・生活の実態、異文化理解、異文化適応過程、日本語・英語の言語理解の実態、関連性および因果関係を明らかにする。日常的に行っている指導・カウンセリングを通して明らかになった留学生の学習・生活面での新たな問題あるいは事件については、それらに対処するための情報を定期的に収集し、分析する。また、わが国全体における留学生施策全体についての研究活動を行い、広島大学における留学生施策、留学生支援体制の改善のための提言を行っている（二宮・中矢, 2003, 2004）。これらの調査・研究をもとに適切なオリエンテーション、パンフレットおよびホームページを開発し、留学生に豊富な情報の提供と指導助言の質的な充実を図っている。

2.2 平成15年度前期の活動

平成15年度の留学生受け入れのための準備は、平成14年度の3月から始まっている。

3月上旬ーボランティア・チューターの募集

日本語研修生の多くは日本語がまだ不十分であるにもかかわらず、有償のボランティアはつけられていない。そこで、国際交流ボランティアに呼びかけ、渡日後の生活支援をお願いした。通常英語でのコミュニケーションとなるが、南アメリカや中国からの留学生で英語能力が不十分であることが予想される人には、ポルトガル語や中国語にある程度精通しているボランティアを探した。ボランティア・チューターに求められる資質・能力の多様化していること、また活動が4月の上旬と学年度の行事の多い時期であることなどから日本人学生の応募が不足しており、決定してもスケジュール調整が難しいいという問題が毎年ある。現状ではメールで頻繁にやり取りを行うことで対応しているが、調整のための人と時間が足りない。また、ボランティアの質的向上も大きな課題である。

3月31日(月)－ボランティア・チューターのためのオリエンテーション (K308)

国際交流ボランティアの希望者から選ばれたボランティア・チューターのために、支援活動や留学生のプログラム等についてのオリエンテーションとマッチングを2時間に渡って行った。まず、留学生支援として行ってもらいたい活動として、外国人登録、銀行口座開設、国際交流会館の入居手続き、下宿探しなどの最低限求められる活動や日常生活を始めるにあたって必要な生活用品の調達やキャンパスおよび市内の案内などの活動について、また異文化コミュニケーションに関わる注意事項などについて説明した。ついで留学生が所属するプログラムの説明、留学生のスケジュールなどについて概要を説明した後、ボランティア・チューターの希望（渡日スケジュール、出身国、性別）によって、自分たちでどの留学生のチューターになるかを決めてもらった。一度の説明では理解できないことも多いが、出迎え後に留学生に対して行うオリエンテーションを一緒に聞いてもらうことで、すべきことの確認を行っている。課題としては、留学生の日常のスケジュールに関する情報がうまく伝わっていないため、留学生と会う時間や週末の活動の調整が難しいことである。この点については、後期から改善した。

4月2日(月)～4月10日(水)－新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

国際交流ボランティアのチューターと共に、大学の公用車を用いて、JR東広島駅で横断幕を持って留学生を迎えた。そのまま多くの留学生の宿舎となる国際交流会館に行き、その日のうちに国際交流会館の入居申込みのための基本的な書類の作成を行い、翌日から市役所で行う外国人登録や国民健康保険や銀行での口座開設などについての説明を行った。また、今後のスケジュールを配布し、重要な行事と場所を説明し、国際交流会館周辺の交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストランなど、すぐに必要と思われる情報について基本的なオリエンテーションを行った。到着日当日に国際交流会館のガイドブックやキャンパスライフガイドブックの英語版の必要性が非常に高い。これについては、16年度に改善を行うこととしたい。

4月7日(月)－国際交流会館生活オリエンテーション

日本語研修生全員と一部の日本語・日本文化研修プログラムの留学生および他の国際交流会館に住んでいる留学生(留学生センター所属以外の留学生)に対して、国際交流会館に住むためのオリエンテーションを国際交流会館2階で行った。家賃の支払い、ゴミの出し方、電話の使用、郵便物の受け取り、長期の不在など、さまざまな生活上の留意点を詳細に説明した。なお，このオリエンテーションには，学術交流で広島大学に来ている研究者(国際交流会館C棟に居住)も含まれている。

4月7日(月)－全学留学生オリエンテーション

はじめて新しく広島大学へ留学してきた学生のために、日本語と英語によるオリエンテーシ

ョンを行った。このオリエンテーションでは、留学生相談、ハラスメント相談，健康保険、アパートを借りる際の保証人制度、携帯電話の購入、一時帰国、アルバイト、車の購入、駐車証明など、大学の留学生支援体制および生活全般の説明を行った。

なお、防犯対策として広島大学留学生センターでは、『防犯を防ぐために(To Prevent Crimes)』(1999)という日本語と英語の対訳のパンフレットを作成しており、これを配布して、戸締り、泥棒、ひったくり、自転車泥棒、スリ、性犯罪防止対策などについて説明を行っている。

4月12日(土)－東広島市オリエンテーション・バスツアー

バスを1台借りて、東広島市のオリエンテーションのためのバスツアーを行った。広島大学の東広島地区のキャンパス全体や各種の施設、広島国際プラザ、東広島体育館、三つ城古墳、東広島中央図書館、西条警察署、西条駅、各種病院、リサイクルショップ、東広島駅などを回りながら、利用方法などについて説明した。これは、大学およびその周辺の環境を体験的に知ってもらうという企画のオリエンテーションである。

5月8日（木）－健康管理オリエンテーション

このオリエンテーションでは、日本の健康保険の仕組みについて説明した。留学生が病院で診察や治療を受けた場合、国民健康保険が、治療費の 70 パーセントを補助し、さらに、日本国際教育協会(AIEJ)の外国人留学生医療補助制度により、留学生負担分の 30 パーセントの内 80 パーセントまで補助することができる(詳細は、広島大学留学生センター，2000 を参照)。その結果、留学生の負担分が、治療費のわずか6パーセントになることを説明した。その際、日本国際教育協会が発行している『留学生のための健康のしおり』(第2刷，1999 年)を配布して、説明に利用している。また、東広島市にある主な病院および外国語が通じる病院についての一覧表を配布して、情報提供の徹底を計った。さらに、健康診断に必要な書類の記入を英語で説明し、保険証といっしょに携帯するよう指導した。

5月10日(土)－防災・消防オリエンテーション

春と秋の年2回、留学生がある程度生活に慣れてきて、来日後1ヵ月くらい経った時期に、賀茂広域消防署の協力を得て、国際交流会館で消防訓練を行っている。梯子車による7階からの脱出訓練、消火器操作訓練などの実地訓練を含んでおり、訓練を通して、留学生に防災の知識が身につくように努めている。ただし、このオリエンテーションは国際交流会館に居住する留学生のみであり、他の留学生には、学内で行われる防災訓練に参加を義務づける必要がある。

5月13日(水)　広島地域留学生団体育成支援協議会

広島地域レベルでは，広島地域留学生団体育成支援協議会で広島地域の大学関係者などが集まって，留学生関連の問題，支援，交流，研修などを実施してきた。これは，モデル事業が終了した2001年度も継続している。ほぼ2カ月に1回くらいの割合で開催し，地域レベルでの留学生支援を行っている。

5月24日（土）　留学生センター公開講座「異文化理解講座」の開催

平成15年度の留学生センター公開講座「異文化理解講座」の第1回として、「イスラム文化」の講座を行った。異文化理解異文化異文化理解とは何か、異文化理解に必要な知識やスキルや態度とは何かを理解してもらい、実際の交流においてコンフリクトを避けるためのミニマムエッセンスを習得されることを目的とした。特に第一回目では、日本人になじみのないイスラム文化圏から来た人々の交流に役立つ話を行った。参加者からは、活発な質問があり、手伝ってくれたエジプト留学生の生の意見を聴くなど、有意義な講座となったが、参加者数が8名と少ないことが今後の課題である。また、市民に対してだけでなく、留学生センターの講座として学内の職員や学生にも実施することが必要だと考える。来年度の課題としたい。

6月10日(火) 国立大学留学生指導研究協議会

全国レベルでは，国立大学留学生指導研究協議会において，1年に2回の会議，同協議会のインターネットによる情報交換をおこなってきた。今回は，東京大学にて協議会が開かれた。

6月16日（木）第1回　国際交友ボランティア・オリエンテーション

昨年まで、国際交流ボランティアに登録したい学生は、随時中矢の研究室に訪れ、そのたびに30分以上の説明と質疑応答を行い、登録するのに1時間弱かかっていた。その数は年間60人を越えており、その他の業務活動を圧迫するため、年に3回のオリエンテーションと登録を実施することとした。オリエンテーションでは、「ボランティア指導・充実委員会」の委員全員が出席し、説明およびその補佐を行った。

第1回オリエンテーションには、27人が参加し、全員が登録した。

6月下旬　平成15年度前期　広島大学留学生支援調査の実施と対応。

詳細は第二部の報告を参照。

2.2　平成15年度後期課程の活動

前期と同様、後期も新渡日留学生に対する一連のオリエンテーションおよびさまざまな大学や地域の行事を実施した。

9月上旬　　ボランティア・チューター募集

10月1日(金)　ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

10月1日（水）第1回全国産業教育フェア（広島大会）東広島会場運営委員会
15:40～17:30　西条農業高等学校にて

第1回全国産業教育フェア（広島大会）東広島会場運営委員会へ出席した。このフェアは、高等学校生徒による産業教育に関する成果等の総合的な発表の場を全国的な規模で提供するものであり、産業界、教育界をはじめ広く国民に産業教育について考える機会を提供し、これを通じて「これからの時代の高等学校における産業教育の在り方を探るとともに、その振興に資すること」を目的とするものである。指導部門には、このフェアにおいて企画されている国際交流フォーラムおよび異文化交流イベントの計画・準備に参画することが期待され、第1回の委員会では、積極的にイベントの企画案を提案した。このつながりを生かして、来年度はさらに広島大学留学生と地域との交流活動を促進していきたい。

10月2日(月)～10月8日(水)　新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション
10月7日(火)　国際交流会館生活オリエンテーション
10月7日(火)　全学留学生オリエンテーション
10月15日（木）第2回　国際交流ボランティア・オリエンテーション
34人の参加者があり、全員が登録した。

10月16日（木）　図書館施設に関するオリエンテーション（中央図書館）
10月13日(月・休日)　東広島市オリエンテーション・バスツアー
10月30日（木）　ホームページおよび文献検索（電子ジャーナルなど）に関するオリエンテーション（中央図書館）
11月6日(木)　健康管理オリエンテーション
11月8日（土）　防災訓練　（国際交流会館居住者対象）
10:00～12:00

11月11日（火）第2回　全国産業教育フェア（広島大会）東広島会場運営委員会（15:40～17:30）
西条農業高等学校にて

第2回全国産業教育フェア（広島大会）東広島会場運営委員会へ出席した。実行委員会による他県での産業教育フェアの報告を受け、具体的なイベントの企画について議論を行った。特にイベント内容、およびそれに合わせた場所、実施方法について積極的に提案を行った。

11月27日(木)　第1回図書館ユーザー会

広島大学の図書館について，自由にユーザーが意見を述べることのできる会が発足した．留学生１名と指導部門教官１名が委員として会に参加することになった．

11 月 28 日(金)　広島大学学長主催・広島大学外国人留学生懇親会

毎年恒例となった留学生交流会が，ホテルグランヴィア広島の４階「悠久」で行われた。今回は，学長挨拶，来賓紹介，来賓代表挨拶，留学生代表挨拶，乾杯，食事・歓談に続いて，留学生および日本人のアトラクションが行われた。（アトラクションの内容は添付資料を参照）広島大学留学生センター指導部門は，会場の設営，プログラムの作成，アトラクションの企画・運営を行った。本部の留学生課との共同作業による本懇親会には，約 1000 名に上る留学生および日本人が参加した。

1 月 15 日（木）国際交流ボランティア・オリエンテーション

16 人の参加があり、全員が登録した。

1 月 21 日（水）第３回　全国産業教育フェア（広島大会）東広島会場運営委員会（15:30～17:30）
加茂高等学校にて

1 月 16 日(金) 竹原小学校国際交流活動「世界に伝えたい私たちの国のこと」

1 月 23 日(金) 山口大学にて「留学生指導における諸問題」シンポジウムに講演者として参加

1 月 27 日（火）留学生専門教育教官等連絡会 15：00～16：00

森川専門教育教官の方からのご提案で、「私費留学生の不公平感にどう向き合うか」について議論するため、それに直接関わってくる広島大学の新しい留学生支援体制に関する情報の共有化と議論を目的として連絡会を開いた。議題は以下の通りである。

１．広島大学外国人留学生受け入れに伴う支援事業について

（1）民間アパート等に入居の際、大学(副学長)による機関保証

（2）事件・自己等に関して教職員が受ける経済的負担を軽減

２．私費外国人留学生奨学金選考基準について

３．ビザの資格審査について

各項目について、留学生課吉田課長および山崎専門職員から説明を頂き、そのご活発な質疑応答と議論を行った。

また、報告事項として、以下の事項について情報の提供を行い、質疑応答を行った。

１．「指導教官のための留学生指導に関する 10 の情報」について

２．「留学生施策の戦略的方策に関する研究」について

活発な議論が行われたが、残念なことに専門教育教官の参加率が低くかった。今後一層効率的に

支援ネットワークを機能させていくために、指導部門としてより積極的な呼びかけを行うとともに、組織改革を訴えていく必要性がある。

２月 10 日(火) 第２回図書館ユーザー会

参考文献

○文部省学術国際局『21 世紀の留学生政策』平成 11 年 3 月.

○中央教育審議会『新たな留学生政策の展開について（答申）－留学生交流の拡大と質の向上を目指して』平成 15 年 12 月 16 日.

○岡益巳・玉岡賀津雄 (2001). 留学生センターからみた留学生専門教育教官との連携について. *留学生交流・指導研究*, 国立大学留学生指導研究協議会.

○広島県警察本部広報課（未記入). *県民のまもり－広島の警察*. 広島: 広島県警察本部広報課.

○広島大学留学生センター (1999). *犯罪を防ぐために(To Prevent Crimes)* 東広島: 広島大学留学生センター

○広島大学留学生センター (2000). *広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド*. 東広島: 広島大学留学生センター

○日本国際教育協会 (1999, 第２刷). 留学生のための健康のしおり. 東京: 日本国際教育協会事業部学生生活課保健係.

○二宮皓・玉岡賀津雄・中矢礼美 (2001). *平成 13 年度前期広島大学留学生の学習と生活に対する満足度調査*. 平成平成 13 年度第２回留学生センター運営委員会および第２回留学生センター教官・留学生専門教育教官等連絡会合同会議, 東広島地区(事務局５Ｆ１会議室)・広島地区(歯学部小会議室). 平成１３年６月２９日(金)15:00～17：00.

○玉岡賀津雄 (1999a). 留学生指導部門: 「対処」型の支援活動から「予防」型の交流活動への転換. *留学生教育, 3*, 112-121.

○玉岡賀津雄 (1999b). 国際交流ボランティア制度の導入による留学生の指導・助言活動の新しい展開. *1998 年度広島大学留学生センター講演・討論会報告書「二十一世紀の留学生教育に向けて」* (pp. 29-37). 東広島: 広島大学留学生センター.

○玉岡賀津雄・金田智子 (2000). 留学生指導部門: 各種オリエンテーションの充実と平成 11 年度指導. *留学生教育, 4*, 99-109.

○玉岡賀津雄・堀田泰司・金田智子・石原淳也 (2001). *学生チューターハンドブック*. 東広島:広島大学留学生センター.

○Tamaoka, K., Ninomiya, A., & Nakaya, A. (2003). What makes international students satisfied with a Japanese university? *Asia Pacific Education Review*, 4(2), 119-128.

○二宮皓・中矢礼美(2003)『留学生施策の戦略的方策に関する研究－教員研修留学生プログラムに関する調査研究』(課題番号　13800004) 平成13－15年度科学研究費補助金 (特別研究促進費(1)) .
○二宮皓・中矢礼美 (2004) 「留学生調査にみるわが国の大学院受け入れ態勢の現実と課題－大学院留学生調査と教員調査の自由記述分析を通して－」広島大学留学生センター紀要.

第二部　広島大学留学生支援調査「満足度指標」の分析結果報告

広島大学留学生センター指導部門
教　授　　玉岡　賀津雄
講　師　　中矢　礼　美

2003年度・後期に広島地域の留学生に対して広島地域留学生交流推進会議事務局が「留学生のための生活実態調査」を行ったため，留学生の満足度調査は，2003年度・前期にのみ実施した．なお，この調査は広島大学留学生支援調査として総合的に行われており，調査は３つの部分から構成されている．一つは「満足度指標」であり，留学生の一般的な満足度を測定する．二つは「フィードバック型の自由記述による問題解決」で，留学生の抱える問題を直接なおかつ自由に記述してもらい，さらにそれに対して対処するという双方向の活動を支えている．三つは，「国際交流ボランティア活動への参加」で，地域や教育委員会，さらには海外からの訪問者の国際交流のニーズに合わせて，留学生を紹介するためのデータベースを作成する．ここでは，このうちの第１番目の「満足度指標」について，分析の結果を報告する．

調査対象および回答者の属性

広島大学留学生課(現，国際部留学交流グループ)より入手したリストに従って，2003年５月１日の現在で広島大学に登録した留学生の762名(女性341名，男性421名)全員に質問紙を配布した．この内，質問紙に回答したのは178名であった．したがって，有効回答率は23.36パーセントであった．これらの回答者の学籍は，大学院生が130名，学部生が19名，研究生が22名，その他が６名であった．１名の留学生は記述がなかった．出身国・地域は，中国が62名，韓国が13名，台湾が９名，マレイシアが５名，インドネシアが14名，その他が75名であった．女性が74名で，男性は，104名であった．また，私費の留学生が84名，国費の留学生が91名で，無記入が３名であった．また，理系が96名，文系が74名，その他が８名であった．回答した留学生の平均年齢は，30歳４カ月で，標準偏差は５歳３カ月であった．最も若い留学生は，19歳で，最も年長は４７歳であった．また，広島大学での在籍年数は，１年９ヶ月で，標準偏差が１年６ヶ月であった．もっとも長いのは，８年３ヶ月という回答者がいた．また，短いのは２ヶ月であった．

質問紙の内容

質問紙には，留学生の属性として，性別，年齢，出身国・地域，学籍，所属，私費・公費，専門，在籍年数，使用言語などを記入する欄を設けた．質問は，留学生の満足度指標として適

切であると思われる項目について，８種類に絞って，「全くそう思わない」が－２点，「そう思わない」が－１点，「どちらとも言えない」が０点，「そう思う」が１点，「とてもそう思う」が２点で集計した．この配点であれば，マイナスが不満で，プラスが満足を示すので，分かりやすい．また，総合的に判断して，広島大学での学習と生活および大学の授業や研究に満足しているかどうかを同様に判断してもらった．したがって，満足度の指標は 10 種類の質問項目からなる．

手続き

各留学生の名前を記入した封筒に，質問紙と学内便による返信用の封筒を入れて，留学生の管理部局から配布していただいた．また，各管理部局には，質問紙の回答箱を用意して，入れられるようにした．さらに，返信用の封筒の表に留学生センター長の名前が印刷されていたので，学内便でも返送が可能であった．

論文および指導教官との会話での使用言語

今回の調査では，少し詳しく回答者の属性を聞いた．まず，使用言語については，論文で使用する言語は，日本語が 73 名で，41.0 パーセント，英語が 92 名で 51.7 パーセントであった．その他の回答は２名で，回答しなかった者が 11 名であった．回答者からみると，論文を英語で書く留学生が過半数を少し上回っていた．また，指導教官との会話では，日本語を使用する留学生が 107 名で 60.1 パーセント，英語が 61 名で 34.3 パーセントとなった．その他および無回答が 10 名であった．指導教官との会話は，論文の場合と逆転する結果であった．つまり，論文は英語であっても，指導教官とは日本語でコミュニケーションを計っている．このことは，留学生のニーズを考えると，日本語教育において，指導教官や研究室内での口頭表現などを含んだ日本語指導が必要であることを示唆している．また，一方で，論文を書く場合に英語が使用される傾向があるので，留学生のための英語教育の充実も今後の課題であろう．

満足度指標および総合的満足度指標の概要

10 種類の質問について，－２点から２点までの連続変数であると仮定して，平均，標準偏差を算出した．得点は，表１に示したとおりである．すべての満足度指標の平均において，マイナスはなかった．全体的にみて，留学生が広島大学での学習，研究，生活に満足していることを示している．八つの満足度指標のうち，プラスで１点以上だったのは，二つの指標であり，もっとも高いのが「指導教官の研究に対する助言」で，これは＋1.37 という高い数値であった．広島大学の留学生は，大学院生が多数を占めている．その状況で，留学生が指導教官の研究指導に対して高い満足度を示していた．このことは，広島大学が学術的に高いレベルの大学を目指していることを考えると，高く評価できよう．次に，「大学図書館が利用」であり，＋1.01

であった．広島大学図書館は，利用者のことを考慮して，開館時間の延長，Web 文献検索の充実などさまざまな便宜を図っており，留学生の満足度にもその効果が表れているのであろう．ただ，「カリキュラムの適切性」についての満足度がプラスではあるが，比較的低く，留学生に対する内容および使用言語についての配慮が，今後の課題となるであろう．

表１　満足度指標の平均と標準偏差

#	満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
1	**指導教官の研究に対する指導**	**176**	**1.37**	**0.72**
2	留学生の研究に関する知識	177	0.71	0.93
3	研究室の人達の助言	171	0.88	0.97
4	カリキュラムの適切性	175	0.59	0.97
5	授業の内容の理解	172	0.49	0.85
6	**大学図書館の利用**	**177**	**1.01**	**0.97**
7	日本での生活を楽しんでいる	178	0.99	1.01
8	留学生センターの情報提供	177	0.68	0.96
#	総合満足度指標	有効回答数	満足度	標準偏差
9	**授業と研究に対する総合的満足**	**178**	**1.04**	**0.85**
10	日常生活に対する総合的満足	178	0.76	0.97

注1：１から10までの満足度指標は，２から-２までの変数である．
注2：灰色のセルは，1.00以上の満足度を示す．

本調査では，総合的満足度指標として，授業・研究および日常生活という２つの視点から満足度を聞いた．その結果，授業・研究に対する全体的な満足度が＋１を越えており，広島大学の授業や研究について，留学生がかなり高い評価を下していることが分かる．また，日常生活についても，決して低くはなく，+0.76 であり，ある程度高い満足度を示していた．なお，「授業・研究」と「日常生活」に対する総合的満足のピアソンの相関は，r=.497 (p<.001) と高く，ある程度両者がお互いに関係していることが分かる．

研究科ごとの満足度指標比較

学部所属の留学生の回答者数が少ないので，大学院研究科ごとの満足度指標の平均を表２に示した．灰色のセルは，満足度が平均で+1.00 以上を示しており，良い評価と考えてよい．白いセルが目立つほど，評価は低いことになる．

表２によると，10 指標の平均で最も高い満足度を示したのは，12 研究科のうち，医学研究科であり，+1.24 と非常に高い満足度であった．特に，「指導教官」，「研究の知識」，「研究室の人達」に対する満足度が，+1.60 と極めて高いのが特徴である．広島市の霞キャンパスで充実した学習・研究生活を過ごしていると思われる．次に高いのが，理学研究科で，+1.17 であっ

表２ 留学生の所属する大学院および留学生センターごとの満足度指標の平均

研究科・センター	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
文学研究科	1.83	0.50	1.17	0.50	1.00	1.00	0.50	0.00	1.17	0.17	0.78
教育学研究科	1.50	0.79	0.96	0.96	0.75	1.29	1.11	0.82	1.14	0.75	1.01
社会科学研究科	1.54	0.38	0.08	0.69	0.23	0.92	1.38	0.23	0.85	0.92	0.72
理学研究科	1.82	1.09	1.64	1.20	0.80	1.09	0.91	0.82	1.45	0.91	1.17
先端物質科学研究科	1.78	1.22	1.44	1.11	0.50	1.13	0.89	0.56	1.33	0.89	1.08
医学研究科	1.60	1.60	1.60	0.80	0.40	1.60	1.40	0.80	1.60	1.00	1.24
歯学研究科	1.00	0.50	0.50	0.00	0.50	1.50	1.00	0.50	1.00	1.50	0.80
医歯薬学総合研究科	1.44	0.33	1.22	1.00	-0.44	0.67	0.67	0.89	1.00	0.44	0.72
保健学研究科	1.50	0.50	2.00	1.50	1.50	1.00	0.00	-1.00	2.00	0.00	0.90
工学研究科	1.39	1.08	0.79	0.74	0.45	1.29	1.04	0.91	1.25	0.63	0.96
生物圏科学研究科	1.67	0.87	1.13	0.71	0.57	0.93	1.20	0.73	1.13	1.13	1.01
国際協力研究科	0.94	1.00	0.44	-0.13	0.44	0.31	0.50	0.69	0.44	0.56	0.52
留学生センター	0.75	-	1.00	0.25	0.50	1.00	0.75	0.50	1.00	1.00	0.75

注1：１から10までは満足度指標で，２から－２までの変数である．灰色のセルは，1.00以上の満足度を示す．
注2：満足度指標によって回答者数が異なるが，上記の研究科および留学生センターの調査は約130名（全体の73%）の集計である．
注3：高等教育研究開発センター所属の留学生の回答はなかった．

た．やはり，医学研究科の場合と同様に，学習・研究に対する満足が高いようである．第3番目に満足度が高かったのは，先端物質科学研究科で+1.17であった．特に，「指導教官」に対する満足度が高く+1.82であった．

一方，満足度が最も低かったのは，留学生数が過半数を占める国際協力研究科で．+0.52であった．国際協力研究科については，他の研究科で「指導教官」に対する満足度が＋1.00以上であるのに，それを下回っていた．留学生が過半数を占める研究科であるだけに，その直接の研究指導に当たる指導教官の評価が他と比べて低いのは，やはり指導方法など見直しが必要であろう．同研究科の「カリキュラムの適切性」については，−0.13というマイナス評価となった．留学生のニーズに合わせたカリキュラムの改善が今後必要であろう．

第2と第3目に同じ平均満足度の+0.72で低かったのは，社会科学研究科と医歯薬学総合研究科であった．特に，医歯薬学総合研究科で，「授業内容の理解」が−0.44というもっとも低い満足度を示していた．一方，社会科学研究科では，「研究室の人達」に対する満足度が+0.08と12の研究科で最も低かった．

留学生センターに対する満足度は，「研究の知識」を外すと+0.75であり，高くはないが，極端に低くもないという結果であった．ただ気になるのは，「カリキュラムの適切性」が+0.25とかなり低く，これは留学生センターが提供しているコース全体を留学生の目から吟味しなおしてみる必要を示唆しているのではなかろうか．

表3　8つの満足度指標についての因子分析の結果

#	満足度指標	因子1 研究・教育	因子2 生活・施設	共通性
1	指導教官の研究に対する指導	.658	.398	.434
2	留学生の研究に関する知識	.627	.200	.427
3	研究室の人達の助言	.576	.355	.334
4	カリキュラムの適切性	.694	.546	.518
6	大学図書館の利用	.379	.631	.399
7	日本での生活を楽しんでいる	.222	.544	.306
8	留学生センターの情報提供	.375	.411	.199
5	授業の内容の理解	.366	.315	.152
	分散の％	28.3%	6.0%	
	累積分散の%	28.3%	34.6%	
				II
		因子相関	I	.561

注：因子抽出法は最尤法で，　回転法はKaiserの正規化を伴うﾌﾟﾛﾏｯｸｽ法。

満足度指標の因子分析

因子分析によって，8つの満足度指標がどのような因子から成り立っているかを検討した．

因子抽出法は，最尤法を使い，回転は Kaiser の正規化を伴う斜交回転のプロマックス法を使った．その結果，表３に示したように２つの因子がみいだされた．第１は「研究・教育」因子で，「指導教官」，「研究に関する知識」，「研究室の人達」，「カリキュラムの適切性」の４つの満足度指標からなる．これらの指標は，一つの関連した因子群であると考えられる．第２は「生活・施設」因子であった．それには，「大学図書館の利用」，「生活を楽しんでいる」，「留学生センターの情報提供」の３つが入る．留学生センターは，生活・施設についての情報を提供しており，その意味でこの因子に入ったのであろう．カリキュラムの適切性については，研究・教育に入れてはいるが，生活・施設にも大きく貢献しており，両方に関係している満足度指標であると思われる．この点については，より詳細の分析が必要であろう．また，「授業の内容の理解」は，いずれの因子としてもあまり高くはなかったので，両因子から外した．ただ，本因子分析の累積分散が，34.6%にすぎないので，この２つの因子で説明できる内容は，決して高いとはいえない．しかし，いずれにしても，研究・教育という因子と生活・施設という因子は異なるものであことが示されており，本調査でも，総合的満足度について，両者を別々に聞いているのは妥当であることを証明している．両因子の相関は，r=.561 であり，かなり高い．異なる因子とはいえ，相互に関係していることがうかがえる．

授業・研究への総合的満足度を構成する内容

授業・研究への総合的満足を予測するために，八つの満足度指標を予測変数(または説明変数)として，ステップワイズ法による重回帰分析を行った．その結果は，表４に示した通りである．８変数のうち半分の４変数が有意な予測変数となった．もっとも重要であるとされたのは，「カリキュラムの適切性」であった(β=.412, p<.0001)．考えてみれば，大学は授業料をとって教育を提供しているのであるため，その商品としてのカリキュラムが留学生の授業・研究の総合的な満足度を決めるのに大きく貢献しているのは当然といえよう．

表４　授業・研究への総合的満足を予測する重回帰分析

有意な予測変数となった満足度指標	β	p
カリキュラムの適切性	.412	****
留学生センターの情報提供	.242	****
授業の内容の理解	.186	**
指導教官の研究に対する指導	.189	**

注1：R^2=.523．表１に示した８つの満足度指標での予測．
注2：* p<.05.　** p<.01.　*** p<.001.　**** p<.0001.
注3：β は標準偏回帰係数を示す．

第２に，「留学生センターの情報提供」が大きな予測変数であった(β=.242, p<.0001)．こ

れは，他の３つの変数が授業・研究に直接関係した満足度指標であるのに比べて，非常に興味深い結果であった．留学生センターが，生活上の問題ばかりでなく，授業や研究に関連した情報や相談も提供しており，満足度がその方面でも貢献していることが示されたといえよう．第３に「授業の内容の理解」であった（β=.186, p<.01）．当然ながら，授業の内容が分からなければ，満足度は低下するであろう．最後に，「指導教官の研究に対する指導」であった（β=.189, p<.01）．実際，指導教官の指導は，研究と強く関係していることが先行研究で分かっており，特に研究の満足には強く影響していると思われる．

これら全体の予測値は，R^2=.523 と高く，これら四つの個々の満足度が，授業・研究の総合的満足を決めているようである．

日常生活への満足度を予測する満足度指標

同様に，日常生活への総合的満足を予測するために，八つの満足度指標を予測変数として，ステップワイズ法による重回帰分析を行った．その結果は，表５に示した通りである．８変数のうち半分の３変数が有意な予測変数となった．そのうちの２変数は，授業・研究への総合的満足度と共有している．このことは，満足度指標が８種類あっても，実際に満足度を全体的に決めているのは特定の内容であることを示している．

表５　日常生活への総合的満足を予測する重回帰分析

有意な予測変数となった満足度指標	β	p
日本での生活を楽しんでいる	.417	****
カリキュラムの適切性	.216	**
留学生センターの情報提供	.169	*

注1：R^2=.343．表１に示した８つの満足度指標での予測．
注2：* p<.05.　** p<.01.　*** p<.001.　**** p<.0001.
注3：βは標準偏回帰係数を示す．

第１の予測変数としてもっとも貢献度が大きかったのは，「日本での生活を楽しんでいる」であった（β=.417, p<.0001）．やはり，日常生活の総合的満足度は，授業や研究とは異なり．まずは生活をエンジョイしているかどうかにある．しかし，ここで注目すべきことは，第２の予測変数が「カリキュラムの適切性」にあることである（β=.216, p<.01）．たとえ日々の生活であろうとも，学生である以上，やはりカリキュラムが満足のいくものでなくては，生活も充実しないことがうかがえる．最後に，「留学生センターの情報提供」が有意な予測変数であった（β=.169, p<.05）．日常生活を楽しく充実したものにするための情報を提供していることを考えると，留学生センターの重要性がここにもあるといえよう．

これら全体の予測値は，R^2=.343 とやや高く，これら３つの個々の満足度が，日常生活の総

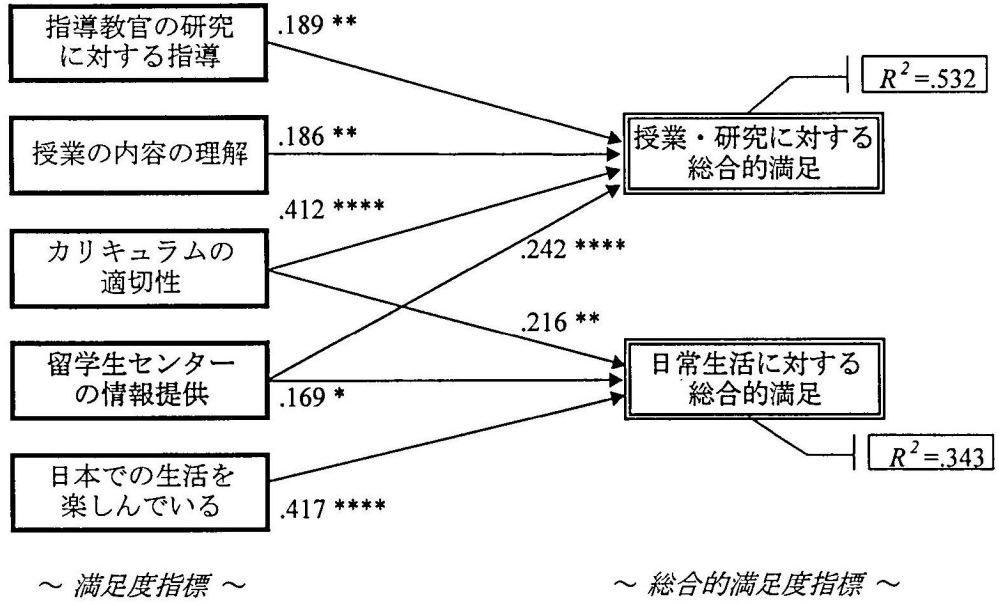

図１ 留学生の授業・研究および日常生活に対する総合的満足を予測する満足度指標

注1: 数値は，標準偏回帰係数． * p<.05. ** p<.01. *** p<.001. **** p<.0001. R^2は，決定係数．
注2: 「授業・研究」と「日常生活」に対する総合的満足のピアソンの相関は，r=.497 (p<.001).
注3: この図は，表４と表５の重回帰分析の結果を構造的に示したものである．

合的満足を，ある程度決めているようである．

留学生の満足度の構造

最後に，授業・研究および日常生活への総合的満足を八つの満足度指標から予測した因果関係のパス図を描いてみた．その結果は，図１に示したような構造となった．八つの満足度指標のうち，実際に授業・研究および日常生活の総合的満足に貢献しているのは五つであり，さらにそのうちの二つが両方に関係していたことは興味深い．

まず，両方に関係していた二つの満足度指標について触れる．一つは「カリキュラムの適切性」である．授業・研究および日常生活の両方の総合的な満足について，大学のカリキュラムが貢献しているのは，基本的に留学生が「学ぶ」ために日本に来ていることを反映しているのであろう．気になるのは，留学生数が過半数を占める国際協力研究科でマイナスの満足度を示したことである(表２を参照)．結果として，同研究科の総合的満足度が，授業・研究ばかりでなく，日常生活でも低くなっているのは，パス図の因果関係をみるとよく分かる．広島大学が，顧客である留学生(もちろん，日本人学生でも同じ)に対して，授業料に対して何を「売る」のかを考えてみれば，カリキュラムが主要「商品」であることは容易に理解できる．カリキュラムの改善は，今後，留学生の全般的な満足度を向上するための鍵となるであろう．

「留学生センターの情報提供」がやはり授業・研究および日常生活の両方に強く貢献していた．これは，留学生センターが，保健，健康管理，宿舎とかの日常生活面での情報ばかりでなく，留学生支援調査の自由記述からのフィードバック，指導教官への留学生に関する情報提供，日本語教育や日本事情のクラスなど授業・研究についてもサポートしていることを反映しているのではなかろうか．留学生センターは，大学の学術的な活動と日常生活を結ぶ重要な役割を担っているといえよう．

総合的な満足にまったく貢献しないことが示された満足度指標が三つあった．それらは，まず「留学生の研究に関する知識」であり，これは留学生本人の問題とされているためであろう．次に，「研究室の人達の助言」であった．一見すると人の和という意味で重要であると思われがちな人間関係であるが，特に強く満足度を左右するような要因とはなっていない．最後に，「大学図書館の利用」である．この満足度指標は，留学生の満足では２番目に高かったが，それが授業・研究および日常生活の総合的満足度に対して強く影響する要因とはならなかった．

図１のパス図は，今後の留学生に対する対応を総括的に要約しているといえよう．授業・研究については，留学生の研究について指導教官がより適切に指導し，留学生のニーズに合わせてカリキュラムを改善し，留学生に対して日々の授業の内容を分かりやすく提供する．さらに，こうした授業・研究に関する情報を留学生センターが効率よく提供する．また，日常生活については，適切なカリキュラムのもとで留学生に充実した勉学を確保し，国際交流や各種活動を通して生活がエンジョイできるように留学生を支援し，そして，留学生センターがこうした日々の交流活動について情報を提供する．こうした改善の方向性が，留学生の満足度が向上することになるであろう．

教育交流部門
広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム

堀田泰司　　恒松直美
(広島大学留学生センター教育交流部門)

活動の経緯と目的

広島大学短期交換留学プログラムは、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議(カルコン)においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながら北米、オセアニア、アジア、ヨーロッパ諸国の大学(短期学生交流協定校)に在籍する学部学生で、本学に一学期若しくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするもので、特別に「英語による授業科目」を開設することでもって、本学で教育を受ける機会を提供し、もって学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、総合科学と言う観点から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来、日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚の養成と海外留学を活性化することが出来るようなプログラムを提供する。また、交換留学プログラムを通じて、広島大学の学生を積極的に海外へ派遣し、21世紀の社会に貢献できるコミュニケーション能力と国際感覚を身に付けた大学生の要請を目指している。

また2001年より、こうした交換留学事業がより効率的且つ効果的に行われるようUMAP (University Mobility in Asia and Pacific) 事業にも参加し、単位互換制度においてもUMAP事業が提唱するUCTS (UMAP Credit Transfer Scheme) を適応している。HUSAプログラムは、国際交流委員会の下部組織である短期交換留学実施部会によって統轄されており、部会は、合計15名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営にあたっては、留学生センターの教育交流部門並びに留学生課がその主たる業務を担っている。また、協定校からの留学生の受け入れ、並びに、英語による授業科目の開講は、各学部が実施している。

I. 受け入れプログラムの概要

- **受け入れ期間：** 一学期又は、一学年
- **募集人員：** 50名
- **募集方法：** 学生交流協定を締結している(締結する)各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する。
- **応募資格：**
  - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
  - (2) 原則として自国の大学の正規課程3年次の学部学生(協定校によっては、院生も含む)
  - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
  - (4) 非英語圏から応募する学生にあっては英語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者

・ **選考方法：** 短プロ実施部会において、協定大学の推薦とＵＭＡＰ学修計画書を参考にしながら、書類をもって選考する。

・ **学生の身分と受け入れ方法：** 学生は、留学生センターで総括しながら、それぞれ専門に応じて本学の指導教官を定め、各学部で「特別聴講学生」（広島大学学生交流規程）として受け入れる。

・ **授業料等の不徴収：** 交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）

・ **カリキュラム：** 授業科目は、３つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSA プログラムの学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」は、すでに学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語を交えた授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第３に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、留学生センターが実施している日本語・日本事情の科目である。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統轄は各学部で行われている。以下が 2003-2004 年度に開設された授業科目一覧表である。

2003-2004 年度(2003 年 10 月～2004 年 7 月)授業科目一覧

１．特設科目

授　業　科　目　名	単位数	開講学期	備　　考
造形芸術教育学概説	２単位	秋学期	教育学部
日本の家庭生活	２単位	秋学期	教育学部
日本の文化と教育	２単位	秋学期	教育学部
日本の理科教育	２単位	秋学期	教育学部
日本文化・教育に関するセミナー	２単位	秋学期	教育学部
日本女性史と日本社会	２単位	秋学期	総合科学部
日本文化実践、書道、生け花、茶道	２単位	秋学期	総合科学部
特別課題研究	４単位	春学期	各学部
「コミュニケーション能力」の概念分析	２単位	春学期	教育学部
インターンシップ	２単位	春学期	教育学部
開発と国際教育	２単位	春学期	教育学部
国際理解教育教材開発論	２単位	春学期	教育学部
数学的構造	２単位	春学期	教育学部
精神物理学と実験	２単位	春学期	教育学部
日英対照言語学	２単位	春学期	教育学部
日本における特別支援教育の傾向	２単位	春学期	教育学部
日本のスポーツと文化	２単位	春学期	教育学部
日本音楽演習	２単位	春学期	教育学部
日本音楽演習	２単位	春学期	教育学部
日本語・日本文学とその教育	２単位	春学期	教育学部
国際マクロ経済学	２単位	春学期	経済学部

食料品病原微生物学	2単位	春学期	生物生産学部
微生物学	2単位	春学期	生物生産学部
景観生態学	2単位	春学期	総合科学部
広島・長崎講座：平和と人権	2単位	春学期	総合科学部
現代科学	2単位	春学期	理学部
生物科学入門	2単位	春学期	理学部
物質科学の最前線	2単位	春学期	理学部
分子形質発現学	2単位	春学期	理学部

2．常設科目

授　業　科　目　名	単位数	開講学期	備　　考
機械活用教材演習 I. II.	2単位	秋学期	教育学部
国際ビジネス論	2単位	秋学期	経済学部
口腔の科学：食生活と全身の健康	2単位	秋学期	歯学部
異文化コミュニケーション論	2単位	秋学期	総合科学部
言語哲学演習	2単位	秋学期	総合科学部
日本語・日本事情B	2単位	秋学期	総合科学部
イギリス現代文学演習	2単位	秋学期	文学部
インド哲学・仏教学演習 II	2単位	秋学期	文学部
英語圏文学演習	2単位	秋学期	文学部
英語圏文学講義	2単位	秋学期	文学部
中期英語演習	2単位	秋学期	文学部
歴史風景解析学	2単位	秋学期	文学部
日本の金融制度と金融政策	2単位	秋学期	法学部
機械活用教材演習 I, II	2単位	春学期	教育学部
物理科学実験A	2単位	春学期	工学部
分子分光学	2単位	春学期	工学部
細胞生物学	2単位	春学期	歯学部
異文化コミュニケーション論A	2単位	春学期	総合科学部
英語ディベート演習	2単位	春学期	総合科学部
現代国際法論演習	2単位	春学期	総合科学部
言語学入門	2単位	春学期	総合科学部
言語哲学	2単位	春学期	総合科学部
語用論	2単位	春学期	総合科学部
分子細胞生物学 I	2単位	春学期	総合科学部
ヨーロッパ図像解析学	2単位	春学期	文学部
地球科学野外巡検A	2単位	春学期	理学部

3．日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級ＩＡ	2単位	秋学期	留学生センター
日本語初級ＩＢ	2単位	秋学期	留学生センター
日本語初級ＩＣ	2単位	秋学期	留学生センター
日本語初級ＩＤ	2単位	秋学期	留学生センター
日本語初級ⅡA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級ⅡＢ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語初級ⅡＣ	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ＩA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ＩB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ＩC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ＩD	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ＩE	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ＩF	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ⅡA	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ⅡB	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語Ⅳ中級ⅡC	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ⅡD	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ⅡE	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語中級ⅡF	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語語彙特別演習A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語聴解特別演習A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本の社会・文化A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本の地域・文化A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本の思想・哲学A	2単位	秋・春学期	留学生センター
映像日本語特別演習A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語表現特別演習A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語古文特別演習A	2単位	秋・春学期	留学生センター
日本語分析特別演習A	2単位	秋・春学期	留学生センター

・ **受け入れ体制の整備**：（1）日本のおける様々な体験学習の場を提供する。（2）学生宿舎（日本人・留学生混住型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。（3）日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。（4）日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。（5）入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼しないで、機関保証（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の短期互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2003-4 年度 HUSA プログラム受け入れ状況

2003 - 4 年度は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、オランダ、スウエーデン、ドイツ、ポーランド、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国の 22

大学と1コンソーシアム(2001年度19大学、2002年度22大学)から計47名（2001年度36名、2002年度39名）の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると男子学生28名、女子学生19名であった。

2002-3年度全協定校と受け入れ実績

派遣国	大学名	人数（男：女）
アメリカ	アラバマ大学	1名（1：0）
	ネバダ大学リノ校（USAC含む）	4名（4：0）
	ハワイ大学	2名（2：0）
	フロリダ州立大学	4名（4：0）
	ミネソタ大学	2名（1：1）
	メリーランド大学	2名（2：0）
	ランドルフ・メーコン大学	0名
カナダ	カルガリー大学	2名（2：0）
オーストラリア	ニューイングランド大学	2名（0：2）
	ラ・トローベ大学	2名（0：2）
ニュージーランド	オークランド大学	1名（0：1）
インドネシア	インドネシア大学	1名（0：1）
シンガポール	南洋大学	0名
タイ	タマサート大学	1名（0：1）
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校	1名（1：0）
マレーシア	マラヤ大学	2名（0：2）
韓国	釜山大学	1名（0：1）
	慶北大学	4名（1：3）
	嶺南大学	3名（2：1）
中国	大連理工大学	2名（1：1）
	燕山大学	0名
イギリス	リーズメトロポリタン大学	3名（0：3）
	シェフィールド大学	1名（1：0）
	レスター大学	0名
オランダ	アムステルダム大学	1名（1：0）
スウエーデン	リンシューピン大学	2名（2：0）
ドイツ	チュービンゲン大学	2名（2：0）
ポーランド	ワルシャワ農業大学	1名（1：0）
	グダニスク大学	0名
ロシア	トムスク工科大学	0名
合計		47名（28：19）

所属学部別

所属学部	人数（男：女）
総合科学部	11名（6：5）
文学部	4名（3：1）
教育学部	15名（7：8）
法学部	2名（2：0）
経済学部	5名（3：2）
理学部	5名（3：2）
医学部・歯学部・薬学部	0名（0：0）
工学部	5名（4：1）
生物生産学部	0名（0：0）
国際協力研究科	0名（0：0）
合計	47名（28：19）

III. 2003-2004 年度 HUSA プログラム受け入れ活動

- **申請と選考**：2004 年度募集要項は、昨年 1 ～ 2 月中に派遣大学へ配布され、3 ～ 4 月に各大学から参加希望者が推薦された。そして、4 月には、本学の選考委員会によって正式決定された。そして、今年度も受入留学生の申請において、UMAP 学習計画書も申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料として利用した。また、16 年の 3 月には、受入れ留学生のオンライン登録を受け付けるようになった。これにより、16 年度から受け入れる留学生のデータベースは、学生が直接、情報を協定校にいる段階で入力するだけで、自動的に作成されるようになった。今年度は、初めての試みであったこともあり、実際の手続きでは、問題点も多く見られた。今後、問題点を明確に把握し、来年度は、より充実したシステムを構築したい。

- **渡日前の情報の提供**：渡日前のオリエンテーションを兼ねて広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き」を各学生に送付した。また、学生の個人的な質問等には、ホームページによる情報の提供と電子メールやファックスを活用し直接、個々のケースに対応した。

- **チューターオリエンテーション**：日本人学生チューターに対し、今年度も 2 回の説明会を行った。第 1 回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第 2 回目は、渡日後 1 週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

- **見学・体験学習**：短期留学生を対象に毎年 10 月から 11 月にかけて、宮島見学、酒祭り見学、文化交流のための学校訪問、地元の祭り見学等、文化体験学習の機会を提供した。また、2004 年の春学期にも花見、泥んこバレーボール大会、そして、禅寺での研修プログラム等も計画している。

- **授業科目の開設状況**：短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も 79 もの科目（一般 50 科目、日本語教育 28 科目）が短期交換留学生の為に開講された。昨年から留学生センターが実施している日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となったため、科目数の減少がおきたが、今年度からは、上級の科目は、研修生や正規留学生そして研究生と合同で受講することにより、上級レベルのカリキュラムが再び充実した。

- **文化交流支援活動**： 今年度は、地元住民との交流活動の一環としてスピーチ大会を呉市において開催した。また、加茂高校と如水館高校との文化交流会を始め、口和町ホームスティプログラムや忠海高校ホームスティプログラムへの参加、そして、東広島ホストファミリークラブとの交流会、クラブ活動への参加の支援等を行って来た。さらに、当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介している。会話パートナーとの交流は、留学生の日本人学生との交友関係をより充実したものにしている。

IV.　2003－4年度HUSA留学生派遣計画

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も1月初旬に応募者の選考試験を行い、1月中には実施委員会で選考、2～5月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集に関する16年度の募集に過去の資料を加え、まとめたものである。

海外派遣学生の募集について

1．制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、平成8度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国、ロシア、ポーランド、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成16年度の派遣学生を別紙の通り募集します。

2．特徴：

- 授業料不徴収
- 単位互換制度
- 現地コーディネータのアシスタント
- 短期交換留学生との留学前の交流と留学後の現地での交流

3．出願書類

①派遣申請書（所定の様式）

②留学計画書（所定の様式）

③ＴＯＥＦＬ成績表

英語能力を応募条件とする大学に留学予定の学生；５３０点（ＣＢＴ１９７点）以上が望ましい。ただし，ＵＳＡＣ語学文化研修応募希望者については，５００点（ＣＢＴ１７３）が必須条件。

注.　英語圏以外で英語能力を応募条件としない大学に留学予定の学生は，別途行う学内語学試験の成績による。

④学業成績証明書（大学院生については，学部の学業成績証明書も含む。）

4．出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係　　平成１５年１１月２８日（金）

5．面接（口述）試験（ＵＳＡＣ応募者のうちＡＩＥＪ奨学金制度に応募しない者を除く）

平成１６年１月７日（水）

6．留学中の学生の身分

この制度を利用して留学する場合は，「留学願」の届出を行い，必ず学長の許可を受けなければなりません。この場合，外国の大学での学修は本学の教育課程の延長線上にあるものとして考えられ，次のとおり修学上の取り扱いがなされます。

- 「留学」の期間は，本学に所定の授業料を支払わなければなりません。
- 外国の大学で学修した成果は本学の履修単位として換算することが可能であり，従って換算された単位は当然卒業に必要な単位数に算入されます。
- 「留学」の期間は，在学期間に算入され，卒業に必要な在学期間の一部となります。

V. HUSA留学生派遣事業の実績

2003年度の短期交換留学生派遣に関しては、既に35名を推薦し、17大学へ派遣した。また、2004年度派遣留学生に関しては、すでに、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、韓国、イギリス、オーストリア、ドイツ、スウェーデン、イタリアの16校へ28名の推薦が決定している。

VI. HUSA留学生派遣事業の活動状況

- **広報活動**：今年度は、より多くの学生に派遣留学のことを知ってもらおうと6月に留学フェアを開催した。例年、2～3回にわけた説明会をこの時期に行っていたが、今年度は、留学生にも母校を紹介するブースを設置してもらい、説明会を実施した。また、将来広島大学へ入学を希望する高校生対象に実施しているオープンキャンパスにおいても派遣留学に関するビラを参加者全員(約5000人)に配布し、留学説明用デスクも設置し、高校生の質問に直接答えた。

- **留学前の情報提供と留学計画の促進**：毎年、派遣が決定した本学の学生に対し2度に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教官並びに学部との単位互換に関する話し合いの場を設ける意味で、ＵＭＡＰ学習計画書を4月の第1回目のオリエンテーションで配布し、留学2～3ヶ月前までに、提出するよう要求している。

- **夏季語学研修プログラムの促進**：2003年度も協定校のサマープログラムの募集、選考を行い、釜山大学へ1名の学生を派遣した。今後、特に交流数の不均衡が生じている協定校で、サマープログラムを開講しているものに関しては、その機会を積極的に利用するよう、さらに募集にも積極的に組み込む計画である。また、2004年度は、新たに交流が始まったUSAC (University Study Abroad Consortium) を利用し、授業料不徴収の枠内で、イタリアのテュリン大学の語学研修プログラムへすでに1名の派遣を決定している。USACの語学研修プログラムは、短期留学の機会を拡大させるので、今後も積極的に広報し、学生の参加を奨励したいと思う。

VII. その他の活動

- **協定校との交流**：今年度は、とくに戦略的に協定校の開拓は行わなかった。しかし、学部から審議を申請された学術交流に関する協定書等は、増えており、確実に学生交流の協定校は増えている。現在、17ヶ国に30校の協定校が存在する。また、2003年の10月には、1999年より加盟しているINU(International Network of Universities)という世界の14大学によって構成される学生交流のためのコンソーシアムの会合をホストし、学長を中心に国際会議並びにシンポジウムを開催した。

- **ＵＭＡＰ促進活動**：今年度も、その他の大きな活動としては、UMAP事業に関わる実質的な学内の業務と国内外でのUMAP事業の普及活動への積極的参加が上げられよう。UMAP事業においては、2000年度から広島大学の短期プログラム実施部会長並びに担当教官がUMAPの各種委員会の委員を努め、国内外でUMAP事業の普及、広報活動に積極的に参加し、また、広島大学の交換留学プ

ログラムにおいてもUCTSを試行的に導入し、協定校との交渉やERASMUSのガイドラインに沿ったプログラムガイドブックの作成等と行っている。今年度は、国内では、東京工業大学でUMAP並びにUCTSに関するワークショップで講演し、フィリピンでは、国際ワークショップに参加し広島大学のノウハウを紹介した。

国際化戦略に関わる活動：2004年度からの独立行政法人化に伴い、現在、広島大学では国際関係の業務の一元化を計り、国際センター設立計画とともに今後の広島大学の国際化戦略構想が検討されている。2003年度は、それらの検討委員会に教育交流部門の教官も参加した。そして、2002年度から設置された国際センターの前進となる「国際交流支援室」においても、室員としても参加している。また、今後の国際交流事業をどう運営するか検討するため、国内外の大学を訪問し、調査をおこなっている。今年度も、国内では、早稲田大学、上智大学、立教大学、名古屋大学を訪問し、また、世界銀行のワークショップや宇都宮大学におけるシンポジウム等にも積極的に参加した。海外調査としては、昨年の米英の大学訪問に加え、2004年3月には、イギリスのシェフィールド大学並びにエジンバラ大学を訪問した。

主なその他の活動

[2003年]

4月
＊リーズメトロポリタン大学国際交流室ディレクター来校
＊ネバダ大学リノ校より学生サービス担当副学長並びに教務・学生サービス部局、ディレクター来校

6月
＊文部科学省・世界銀行主催「国際開発協力のための大学特別セミナー（世界銀行編）」に出席
＊北アリゾナ大学留学生課コーディネータ来校
＊トレド大学外国語学部日本語科主任教授来校
＊アイオワ大学国際室ディレクター来校

9月
＊USACコーディネータ来校

10月
＊オークランド大学英語教育アカデミーディレクター来校
＊本学におけるINU国際会議とシンポジウム開催への協力と参加

[2004年]

2月
＊UMAP国際事務局の派遣でフィリピン、マニラにて開始されたUMAP国際・国内ワークショップに参加し、広島大学のUCTSの運用方法について説明

3月
＊留学生センター講演討論会「大学と国際化：地域との連携」を開催

＊広島大学の国際化戦略構想に関する調査のため、イギリスのシェフィールド大学とエジンバラ大学を訪問

＊早稲田大学、上智大学、立教大学、名古屋大学を訪問し、それぞれの留学生関連部局の活動状況と大学の国際化について調査を実施

2003年度広島大学留学生センター講演・討論会

石原淳也

広島大学留学生センターでは 2003 年 7 月にはプリンストン大学から牧野成一教授をお迎えし、文化能力について、2003 年 12 月には（千葉大学名誉教授）文京学院大学竹蓋幸生教授、本学教育学研究科水町伊佐男教授においでいただき、マルチメディア教材開発についてと二回にわたり講演・討論会を開催した。1 回目は本留学生センター教官を中心に、日本語教育を専攻する院生、学部生を交え、また 2 回目は学外、学内より留学生教育に携わる多くの先生方にお集まりいただき、活発な議論・意見交換の中様々な知見を得ることができた。

第 1 回広島大学留学生センター講演・討論会
「日本語教育における文化教育」

日時：7 月 15 日(火)　12：30～16：30

場所：広島大学学士会館レセプションホール

日程：

12:30～12:50	受付	
12:50～13:00	開会の挨拶	片岡勝子（広島大学留学生センター長）
13:00～14:30	基調講演	「Cultural Proficiency：文化能力とは何か」 プリンストン大学教授　牧野成一
14:30～15:00	質疑応答	
15:00～15:20	休憩	
15:20～16:20	討論会「留学生の文化教育（日本事情教育）のあり方」	
16:20～16:30	閉会の挨拶	浮田三郎（広島大学留学生センター主任）
17:30～19:30	親睦会	

第2回広島大学留学生センター講演・討論会
「コミュニケーション能力を養成する言語教育」
ー英語教育と日本語教育を中心にー

日時：2003年12月12日(金)　(9時～17時00分)

場所：教育学部第3・第4会議室

＜午前の部＞（司会：多和田　眞一郎）

9:00～10：00　受付

10：00～10：05　開会の挨拶　片岡　勝子（広島大学留学生センター長）

10：05～10：15　出席者紹介

10：15～12：00　講演　「三ラウンドシステムによる英語教育」

竹蓋　幸生（文京学院大学教授）

質疑応答

＜午後の部＞（司会：中川　正弘）

13：30～14：30　講演　「聴解練習と日本語CALL教材」

ーCD-ROMの開発と利用を通してー

水町　伊佐男（広島大学大学院教育学研究科教授）

14：30～15：00　休憩

15：00～17：00　全体討論　「コミュニケーション能力と言語教育」

17：00～17：10　閉会の挨拶　浮田　三郎（広島大学留学生センター主任）

17：30～19：30　懇親会　(学士会館)

2003年度第2回広島大学留学生センター講演・討論会参加者名簿

(五十音順)

＜講演者＞			
竹蓋　幸生	文京学院大学 千葉大学	外国語学部	教授 名誉教授
水町　伊佐男	広島大学	教育学研究科	教授
＜参加者＞			
安　秉杰	南ソウル大学		助教授
石川　雄一	横浜国立大学	留学生センター	教授

于　康	関西学院大学	大学院言語コミュニケーション文化研究科	助教授
奥西　峻介	大阪外国語大学	留学生日本語教育センター	教授
金田　智子	独立行政法人国立国語研究所	日本語教育部門	主任研究員
北浜　榮子	大阪大学	留学生センター	助教授
熊野　七絵	独立行政法人国際交流基金	関西国際センター	専門員
斉藤　美智子	岡山大学	留学生センター	教授
佐藤　勢紀子	東北大学	留学生センター	教授
佐藤　友則	信州大学	留学生センター	助教授
荘司　育子	大阪外国語大学	留学生日本語教育センター	講師
助川　泰彦	東北大学	留学生センター	助教授
関　道子	北海道大学	留学生センター	教授
田崎　敦子	東京農工大学	留学生センター	助教授
趙　熙	釜山大学校　人文大学	日本語日本文学科	助教授
中園　博美	島根大学	法文学部　言語文化学科	講師
中西　泰洋	神戸大学	留学生センター	教授
平澤　洋一	城西大学	女子短期大学部	教授
藤原　雅憲	金城学院大学	文学部	教授
保崎　則雄	早稲田大学	人間科学部	教授
松井　信行	東京外国語大学	留学生日本語教育センター	教授
松元　宏行	群馬大学	留学生センター	教授
峯　正志	金沢大学	留学生センター	助教授
李　若柏	東北師範大学	中国赴日本国留学生予備学校	教授

＜広島大学＞		
片岡　勝子	留学生センター	センター長・教授
浮田　三郎		教授
多和田　眞一郎		教授
中川　正弘		教授
玉岡　賀津雄		教授
深見　兼孝		助教授
田村　泰男		助教授
石原　淳也		助教授
堀田　泰司		助教授
中矢　礼美		講師
恒松　直美		講師